

ステロイド点眼とは？その②

では、前回に引き続いてステロイド点眼の解説です。眼科の通院歴が長い患者さんの中には「目がポーっとなって腫れぼったい感じがします。眼圧が上がっているのではないのでしょうか？」という「ちよっと通な」訴えをされる方があります。緑内障の中には自覚症状を伴う眼圧上昇を来す疾患もありますし、急性緑内障にて眼圧値が 60-70mmHg (正常眼圧は 10-21mmHg) 程度に上昇すると虹視(こうし)や視力低下、頭痛・吐き気といった症状を呈する場合がありますが、25 前後の眼圧値だとほぼ自覚症状はありません。

面白いエピソードがあります、僕が研修医の頃です。大学病院の忙しい外来診療を終えて夕方ごろ、突然足早に講師のG先生が検査室に登場、開口一番「S先生！(☺同期随一の美人の女医さんです)、僕は今ものすごく目が重たくて痛みもある。間違いなく眼圧が 26mmHg まで上昇していると思われるので、眼圧検査をしてくれないか？」と。要するに…大学病院の眼科講師の先生なので上記の事は十分に理解しておられるのですが、自分の目の事となると心配になり



代表的ステロイド点眼③
0.1%リンデロンA

り暇な研修医を捕まえて検査をさせようと思いついたという訳なのです。ちなみに、G講師は男性です…検査室にタムロしていた数人の中から思わず一番カワイイ女医さんを指名してしまった事については非難をしては可哀そうですね(笑)。で、結果は皆様お分かりだとは思いますが、検査結果の眼圧値は 13mmHg と全くの正常。「そりゃオカシイ！君の検査技術の問題かもしれない。再検査してくれたまえ！」と 4-5 回繰り返していたように記憶しております。恐るべし、白い巨塔…。今となれば、おそらく初期老眼からくる単なる眼精疲労による自覚症状と判断できますが、当時はワケが判りませんでしたね(笑)。

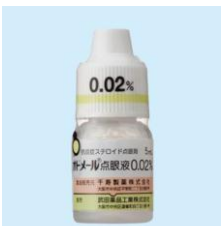
ステロイドは長期間にわたって定期的な点眼を継続して使用するとかなり高い確率で眼圧が上昇します。しかし、病状によるのだからたまに付け忘れていたのだから、継続使用していても眼圧が上がらない人もいます。また、僕がよく患者さんにお薦めする方法ですが、症状がある時に限って不定期にステロイドを使用する(普段から規則正しく使用しない)場合にも眼圧が上がる事は少ないようです。(☞この場合、可能性が少ないとはいえ眼圧上昇のリスクがあるので、定期的な眼圧検査は必須となります。)

また一般に、お子さんはステロイドでの眼圧上昇を来しやすいと言われてます。お子さん場合には眼圧検査を嫌がる事も多いのですが(あまり嫌がってしまうと正確な検査が出来なくなるので、それもそれで注意が必要なのですが…)「ステロイド点眼を使用するお子さんについては、できる限りの範囲内で眼圧を測定するよう努力をする」というのが眼科の世界では一般的です。また、花粉症やその他のアレルギー疾患にて他科(特に耳鼻科)受診がある場合「ついでに目の治療も…」という事でステロイド点眼が処方される場合があります。特に御高齢の先生方でその傾向があるようですが、こうした場合にはもちろん眼圧の検査がされていません。薬剤師さんに確認するなどして「ステロイド点眼が処方されている」とわかれば眼科を受診していただくのが賢いやり方だと思います。

そんな一方で、ステロイド点眼を使用すると長期間の継続ではないのにすぐに眼圧が上がるタイプの人もあります。そういう体質の方を、我々は「ステロイドレスポnder」と呼ぶのですが、事前にどういふ方がレスポnderなのかは分かりませんし、反応のパターンにも弱いステロイドには反応しないけど強いステロイドだと一気に眼圧が上がるだとか…様々なパターンがあるため、一概に「あなたは大丈夫」とか「あなたは必ず眼圧が上がります」とか決定することが出来ないのです。また以前に大丈夫だったという方でも、年齢によって体質が変化する事もあるかもしれません。結局「定期的に眼圧を測定する」という事でしかこの副作用は防げないという事になるのです。また、早めに眼圧が上昇している事がわかり点眼を中止

すれば眼圧は下がる事がほとんどですし、一時的に中等度に眼圧が上昇したとしても緑内障を発症して視野欠損を来すまでにはタイムラグがあるので心配しすぎる必要はありません。

次に副作用の2)(☞前号の vol.23 を参照して下さい)についてです。感染症の発症については1)に比べて自覚症状が出やすいため「気づかずに病気になっていた」という事は考えにくく、そうした意味では心配が少ないと言えます。しかし「ステロイド使用を長期連用+患者さんが御高齢(もしくは低年齢)にて抵抗力が弱い」場合には特殊な菌による感染症を発症することがあり、その場合には使用できる薬剤が少なく治療に難渋します。代表例としてはカビ(≒真菌)といひます)やウイルスによる角膜炎ですが、こうした疾患では使用できる薬剤が限られているため治療までに長い時間を必要とします。対処法としては1)の場合と同様「長期間にわたって定期的な点眼を継続しない」という事がポイントになりますが、自覚症状が出やすいといひ眼科の診察にて早期に病気を見つげられることも多いので、定期診察が必要という点も1)に準じて大切です。



代表的ステロイド点眼④
0.02%オドメル

しかし、こうした予備知識が無いと「副作用で眼圧が上がるかもしれないって言うけど、自分では何でもないもんナ。赤みも痛みもとれたい仕事も忙しいし…なんか今日は混んでるみたいだし…。目薬だけもらえませんか？あと、何種類か出てたんですけど、一番効き目が良かった奴だけでいいですよ。他ののはつけるの面倒だから無駄になっちゃうし…」と訴える患者さんがいます。ここまでガンカニューズを読んで頂いた方なら既にお分かりかと思いますが、副作用が怖いのでそういう考えは持たないで下さい、お願いします。

また逆に、院外処方を担当する薬局さんで短的に「この薬は強い薬だから副作用に注意が必要です！」と説明される事があります。そこで「眼科医の診察を受けながらの投薬が望ましい」との趣きでの説明を付け加えて頂ければよいのですが、その言葉のみで説明が終わってしまう事が多く、その先は薬剤に関して素人である患者さんの個人的で豊かな想像力の世界に委ねられることとなってしまいます…。

エピソード1：ある方は…「副作用のある点眼を処方するなんて！なんという藪医者だろう！私はこの目薬を使わないで病気を治してみせるわ！」

エピソード2：また、ある方は「緑内障!!まあ！なんて怖い！目が痒くて眼科にいつ失明する病気にさせられたんじやタマライわ！」

…申し訳ありません(>_<)、またもや紙面が足りなくなってしまうました(^_^;)。続きは次号で！



携帯サイト用QRコード

<http://www.fujita-ganka.com>

今月のお知らせ

10月19日(金)午後は学校健診のため、10月26日(金)午後と10月27日(土)は臨床眼科学会出席のため休診となります。ご迷惑をお掛けしますが、宜しく願い申し上げます(∩_∩)。

FUJITA-EYE-CLINIC
藤田眼科
エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)
P-Vision

① **042 (645) 0575**
② **042 (642) 2911**